

台東病院等運営協議会報告について

- 1 協議経過 部会 令和6年7月2日開催
全体会 令和6年9月3日開催

2 運営状況（別添『運営評価表』P5～10）

(1) 経営状況

(単位:千円)

	総収益	うち指定管理料	総費用	損益
病院	2,251,793	18,700	2,247,698	4,095
老健	948,460	0	976,269	△27,809
合計	3,200,253	18,700	3,223,967	△23,714

(2) 利用者実績

病院	病床利用率	一般	79.4%
		回復期	91.8%
		療養	91.1%
		全病床	87.4%
	1日あたり外来患者数	219.9人	
老健	入所利用率	90.4%	
	1日あたり通所利用者数	30.8人	

3. 評価結果（別添『運営評価表』P11～14）

9の評価項目について、A評価は8項目、B評価は1項目、C評価は0項目であった。

評価の段階	A	目的・要求等を十分に満たしている状態
	B	目的・要求等を概ね満たしている状態
	C	目的・要求等に対し補う必要がある状態

【個別評価】

(1) 役割・機能の評価

- ① 台東病院が主に高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能しているか → A評価
- ・主に回復期、慢性期の患者の入院を対象とした回復期病棟及び療養病棟の病床利用率が改善し、高い病床利用率を維持することができている。
 - ・在宅療養患者の入院受入や区内特養入所者の緊急受入を積極的に行っているほか、区内の特養に対する嘱託医の派遣も引き続き実施している。
- ② 台東病院・老人保健施設千束が在宅復帰・在宅療養を支援する施設として機能しているか → A評価
- ・回復期病棟の在宅復帰率は昨年度よりも低下しているものの、89.4%と高い水準を維持しており、急性期後の患者に適切なりハビリを行い在宅復帰に向けた十分な対応している。
 - ・在宅復帰に向け、退院前・退所前のカンファレンスを着実に行ったことなどにより、老健千束の在宅復帰率が46.7%と前年度から大幅に上昇している。
- ③ 医療機関等との連携は適切に行われているか → A評価
- ・「台東病院在宅療養患者登録制度」は、登録医療機関数、登録患者数が徐々に増加しており、着実にすそ野を広げている。同制度により在宅療養患者の入院受入を行うことは、訪問診療を行う地域の医療機関を支える取り組みとして、評価できる。
 - ・永寿総合病院脳神経内科と連携し、城東脳卒中連絡協議会の開催や区内病院連絡会議、区内看護部長会議等、多方面で多角的に医療機関との積極的な連携業務をも継続しており、医療機関等との連携は適切に行われている。

(2) 効率性・経済性の評価

- ① 台東病院・老人保健施設千束の施設・機器等を効率的に活用しているか → A評価
- ・病院では、新型コロナワクチン接種や発熱外来、新型コロナ後遺症相談窓口を継続するなど、引き続き新型コロナウイルス対応に取り組んでいる。
 - ・老健千束では、入所前カンファレンスにおいて、多職種で支援方針を検討し、一般療養棟と認知症専門療養棟への適切な入所調整を行うとともに、緊急ショートステイ利用者等に関して、心身状況や家屋事情を考慮して、利用者の負担にならない柔軟な施設運営を実施している。
- ② 台東病院・老人保健施設千束の一体的な事業運営の効率性は発揮されているか → B評価
- ・本業の業績を示す医業及び事業損益は、新型コロナ流行の影響から回復し、大幅な改善が見られた。しかし、新型コロナ関連の補助金がなくなった影響で施設全体の収支は、赤字となっている。補助金の有無が収支に大きく影響を与えているが、散発的に発生したクラスターによる影響も少なくないため、感染対策をより徹底した施設運営が引き続き求められる。

- ・職員採用や各種委員会、研修会の一元的な管理を継続すると共に、複合施設の利点を活かし、台東病院・老健千束、相互に連携しての入退院・入退所調整や、合同での感染症対策会議、陽性者の病院急性期病棟での受入れ等を実施していることから、一体的な事業運営の効率性は発揮されていると評価できる。

(3) 計画性・改善状況等の評価

① 前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか

→A評価

- ・新型コロナの影響で中止をしていた患者満足度調査については、令和4年度は外来、令和5年度は入院、入所、外来共に再開をしている。待ち時間に関しては、課題があることが満足度調査の結果で示されたことから、デジタルサイネージで感染対策、健康推進、フレイル予防動画、消防署からの防火、救急のお知らせを流すなどの待ち時間対策に加え、検査室の早番体制を整え、診察前に検体採取を行うなどの対策を行っている。
- ・職員が生き生きと働き、能力を発揮できる環境を整えられるよう、職員やりがい度調査の実施に向けた準備をしていることなどから、前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしていると評価できる。

② 利用者や区民の意見を取り入れ、台東病院・老人保健施設千束の運営や、利用者の満足度向上に活かしているか

→A評価

- ・新型コロナの影響が減少したことから、従来と同程度の投書件数があった。投書の内容について、院内で共有し、対応などを協議し、状況に応じた対応をしている。
- ・患者満足度調査の結果について、特に意見が多いものから順に取り上げ、病院運営の改善に繋げている点が評価できる。

③ 区立の病院・老人保健施設として、他機関では対応が困難なケースの受入れや区民向けに特化した事業等、採算性にとらわれず事業を実施しているか

→A評価

- ・虐待案件や身寄りがいない高齢者の区長申立による成年後見人の選任協力等、病院・老健千束にて共同し横断的な支援を継続的に行っている。
- ・看取りに向けたACPについて積極的に取り組み、本人や家族等に意向に沿った穏やかな看取りの対応を実践している。
- ・老健千束においては、都立病院感染症科と連携し、HIV患者や感染症のある要介護者を長期入所の対応が出来るよう受入体制を整え、他機関では対応が困難なケースの対応をするなど、採算性にとらわれず事業を実施していると評価できる。

④ 医療従事者の安定的な確保、職員の能力開発や職場の人材育成、組織の持続的成長や環境の変化への適応など、理念を実現する取り組みを推進しているか

→A評価

- ・看護師や介護士確保に加え、理学療法士、作業療法士を確保するために、学校訪問の実施や技能実習生の受入れ等、新卒採用を含めた多様な取り組みを継続的に行っている。

- ・人材育成等のために、専門職については、新規採用時から複数年の研修計画を部門毎に作成し、多職種で連携した教育に取り組んでいる。事務職に関しても、新卒採用、本部からの研修生も含め育成プログラムを確立させ、将来を担える職員育成に取り組んでいる。
- ・地域のイベントへの参加、病院祭の開催など、地域との関りを大切にし、職員が台東区の文化に触れる機会を創出するなど、多様な人材育成に繋げている。

【総合評価】

台東病院については、主に回復期、慢性期の患者の入院を対象とした回復期病棟及び療養病棟の病床利用率が改善し、高い病床利用率を維持することができている。さらに、訪問診療を行う地域の医療機関を支える取り組みとして、「台東病院在宅療養患者登録制度」により、在宅療養患者の入院受入を行っているほか、区内特養入所者の緊急受入を積極的に行っていることに加え、区内の特養に対する嘱託医の派遣も引き続き実施していることから、高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。また、回復期病棟の在宅復帰率は昨年度よりも低下しているものの、89.4%と高い水準を維持しており、急性期後の患者に適切なりハビリを行い在宅復帰に向けた十分な対応をしている点も在宅復帰・在宅療養を支援する施設として機能していると評価できる。

老人保健施設千束については、入所前カンファレンスにおいて、多職種で支援方針を検討し、一般療養棟と認知症専門療養棟への適切な入所調整を行うとともに、在宅復帰に向けた退所前カンファレンスを着実に行ったことにより、在宅復帰率が46.7%と前年度から大幅に上昇している。また、都立病院感染症科と連携し、HIV患者や感染症のある要介護者を長期入所の対応が出来るよう受入体制を整え、他機関では対応が困難なケースの対応をするなど、採算性にとらわれず事業を実施していると評価できる。

収支については、本業の業績を示す医業及び事業損益は、新型コロナ流行の影響から回復し、大幅な改善が見られたが、散発的に発生したクラスターの影響や新型コロナ関連の補助金が無くなった影響などにより、施設全体の収支は、赤字となっている。

人材育成については、計画的に研修を行うだけでなく、地域のイベントに参加するなど、地域との関りを大切にし、職員が台東区の文化に触れる機会を創出するなど、多様な人材育成に繋げている点が評価できる。

今後とも、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、利用者や運営協議会等の意見を活かしながら、区や地域の医療機関等と連携して、質の高いサービスの提供を図ることが求められる。

令和6年度 台東区立台東病院及び老人保健施設千束 運営評価表
(令和5年度実績の評価)

施設名	台東区立台東病院・老人保健施設千束
事業開始年度	平成21年度
開設者	台東区(病院所管課:健康部健康課、老健所管課:福祉部高齢福祉課)
指定管理者	公益社団法人地域医療振興協会
評価の目的	サービスの提供の効果等について、記録、測定又は分析し、一定の基準に照らして客観的に評価・検証することにより、業務・運営等を継続的に改善させる。
評価内容	○新台東病院等整備基本計画に定める基本理念を的確に反映しているか。 ○基本協定書に基づき、保健・医療・福祉機能とその役割を適切に果たしているか。 ○地域に開かれた施設になっているか。
評価項目	①役割・機能、②効率性・経済性、③計画性・改善状況等

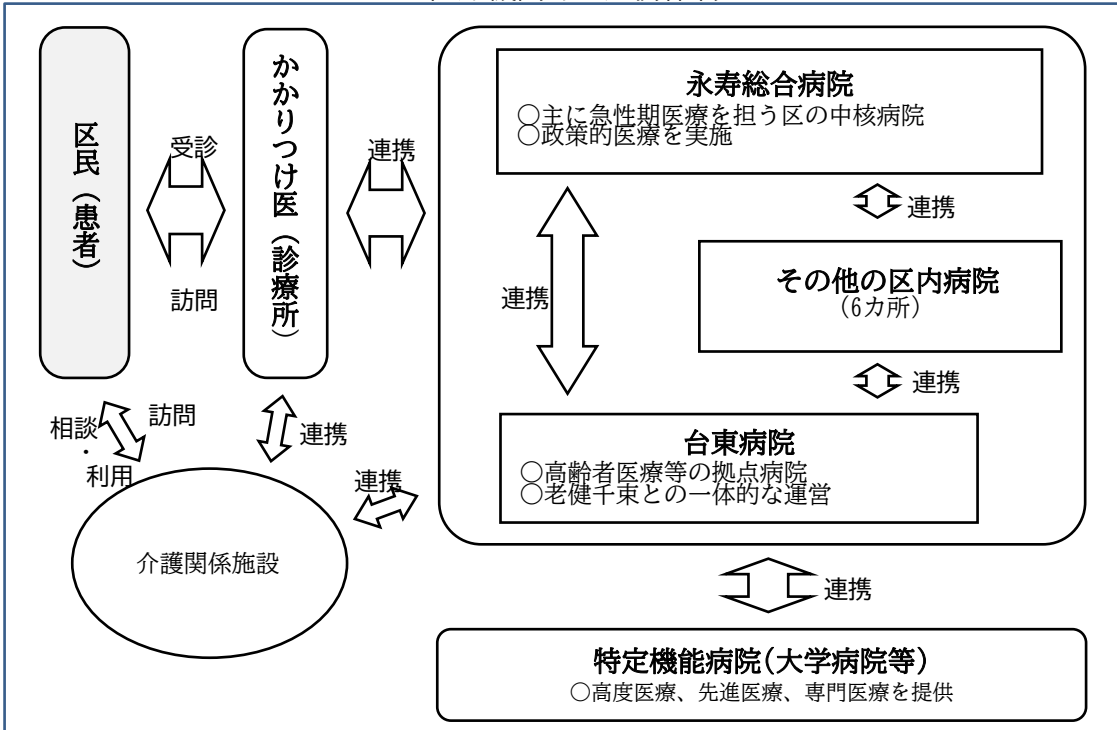
1 事業の概要

施設の概要	
【台東病院】	【老人保健施設千束】
<ul style="list-style-type: none"> ○診療科目 内科、整形外科、リハビリテーション科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科 ○病床数 120床(一般40床、療養80床) ※療養病床のうち40床は回復期リハ病床 	<ul style="list-style-type: none"> ○入所定員 150床(一般100床、認知症専門50床) ○通所リハ 1日あたり定員50人 ※平成26年2月に40人から50人に拡大
連携 ⇄	連携 ⇄
<p>連携 ⇄ 【地域連携相談室】 ⇄ 連携</p> <p>病院・老人保健施設の利用者からの相談や、医療機関・福祉サービスとの連携に加え、高齢者の日常生活の支援や介護に関することなど、さまざまな相談に応じる。高齢者が病気になっても在宅に戻るまで住み慣れた地域で安心して切れ目のないサービスを受けられるよう、総合的な連携・調整を行う。</p>	
施設の基本理念	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者が住み慣れた地域で療養できるよう、高齢者の慢性疾患に対応する病院と在宅復帰に必要な入所施設を一体的に確保します。 ○ 高齢者がいつまでも自分らしく、安心した在宅生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉サービスを提供します。 ○ 高齢者が施設や在宅に必要な保健・医療・福祉サービスを円滑に利用できるよう、サービスの担い手との連携を積極的に推進します。 ○ 安心して子育てができるよう、医療の面から支援します。 ○ 快適な療養環境や質の高いサービスを効率的に提供します。 ○ 『運営の透明性』、『区民に対する説明責任』を確保し、上記の理念が適切に果たされていることを区民の視点に立って評価・検証します。 	
基本方針	
台東病院	<ul style="list-style-type: none"> ○総合医を中心としたチームによる医療を提供します。 ○利用者本位で、満足度の高い医療を提供します。 ○関係機関との連携を推進し、安心して在宅生活を送れるよう、医療を提供します。 ○医療従事者の育成と資質の向上に努めます。 ○区の小児初期救急医療のしくみを補完します。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。
老健千束	<ul style="list-style-type: none"> ○良質で包括的なサービスを提供します。 ○利用者の人格及び意思を尊重し、快適で質の高い療養・介護環境を提供します。 ○地域の福祉関連機関との連携のもと、円滑な在宅復帰を目指します。 ○病院に併設されていることの利点を最大限に活かします。 ○健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。

2 指定管理者の運営理念等

運営理念
『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します
運営基本方針
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者医療に力をいれます ○ 在宅医療を支援します ○ まずは受け入れるという姿勢を持ちます ○ 地域と連携してサービスを提供します ○ 医療に恵まれない地域の支援を行います

<医療機関等の連携体制>



3 事業の現況とその推移

(1)経営の状況

(1,000円未満を四捨五入、単位:千円)

区分		R3年度	R4年度	R5年度	前年度比	主な計上科目	
台東病院	収益	医業収益	2,114,418	2,097,145	2,140,160	43,015	入院・外来収益等
		医業外収益	213,504	499,155	111,633	△ 387,522	指定管理料・補助金等
		合計	2,327,922	2,596,300	2,251,793	△ 344,507	
		(うち指定管理料)	18,700	18,700	18,700	0	
	費用	医業費用	2,159,979	2,294,808	2,235,575	△ 59,233	給与費・材料費・委託費等
		医業外費用	19,015	38,976	12,123	△ 26,853	その他の事業外費用
		合計	2,178,994	2,333,784	2,247,698	△ 86,086	
	損益	医業損益	△ 45,560	△ 197,663	△ 95,415	102,248	—
		医業外損益	194,489	460,179	99,510	△ 360,669	—
合計		148,928	262,516	4,095	△ 258,421		
老健千束	収益	事業収益	852,510	922,387	936,951	14,564	介護保険施設介護料収益
		事業外収益	8,241	16,323	11,509	△ 4,814	受託収益・補助金等
		合計	860,750	938,710	948,460	9,750	
		(うち指定管理料)	0	0	0	0	—
	費用	事業費用	953,835	1,016,446	966,957	△ 49,489	給与費・材料費・委託費等
		事業外費用	24,474	48,112	9,312	△ 38,800	その他の事業外費用
		合計	978,309	1,064,558	976,269	△ 88,289	
	損益	事業損益	△ 101,325	△ 94,059	△ 30,006	64,053	—
		事業外損益	△ 16,233	△ 31,789	2,197	33,986	—
合計		△ 117,558	△ 125,848	△ 27,809	98,039		
全体	収益	事業収益	2,966,928	3,019,531	3,077,111	57,580	
		事業外収益	221,744	515,478	123,142	△ 392,336	
		合計	3,188,673	3,535,009	3,200,253	△ 334,756	
		(うち指定管理料)	18,700	18,700	18,700	0	
	費用	事業費用	3,113,814	3,311,254	3,202,532	△ 108,722	
		事業外費用	43,489	87,088	21,435	△ 65,653	
		合計	3,157,302	3,398,342	3,223,967	△ 174,375	
	損益	事業損益	△ 146,885	△ 291,722	△ 125,421	166,301	
		事業外損益	178,255	428,390	101,707	△ 326,683	
合計		31,370	136,668	△ 23,714	△ 160,382		

収支の概要

台東病院	<p>前年度と比べ、医業収益は4,302万円(2.1%)増の21億4,016万円、医業費用は約5,923万円(2.6%)減の22億3,558万円で、医業損益は1億225万円(51.7%)増の9,542万円の赤字となった。</p> <p>医業外収益は3億8,752万円(77.6%)減の1億1,163万円(指定管理料1,870万円を含む)、医業外費用は2,685万円(68.9%)減の1,212万円で、医業外損益は3億6,067万円(78.4%)減の9,951万円の黒字となった。</p> <p>この結果、台東病院全体の損益は2億5,842万円(98.4%)減の410万円の黒字となった。</p>
老健千束	<p>前年度と比べ、事業収益は1,456万円(1.6%)増の9億3,695万円、事業費用は4,949万円(4.9%)減の9億6,696万円で、事業損益は6,405万円(68.1%)増の3,001万円の赤字となった。</p> <p>事業外収益は481万円(29.5%)減の1,151万円、事業外費用は3,880万円(80.6%)減の931万円で、事業外損益は3,399万円(106.9%)増の220万円の黒字となった。</p> <p>この結果、老健千束全体の損益は9,804万円(77.9%)増の2,781万円の赤字となった。</p>

(2)運営の状況

①役割・機能
【台東病院】

区分		R3年度	R4年度	R5年度	前年度比	備考
体制	職員数	147.4人	135.0人	142.5人	7.5人	○年度末を基準とする ○常勤医師以外は常勤換算人数 ○職員数合計は医師、看護・介護職員、リハビリ職員の合算
	医師	18.6人	17.0人	16.9人	△0.1人	
	常勤医師	11.5人	10.5人	11.5人	1.0人	
	非常勤医師	7.1人	6.5人	5.4人	△1.1人	
	看護・介護職員	96.8人	88.0人	96.6人	8.6人	
	リハビリ職員	32.0人	30.0人	29.0人	△1.0人	
入院	病床利用率	83.2%	81.5%	87.4%	5.9%	病床利用率=入院延べ患者数÷延べ病床数×100
	一般	78.1%	75.6%	79.4%	3.8%	
	回復期リハ	84.8%	83.2%	91.8%	8.6%	
	療養	86.8%	85.8%	91.1%	5.3%	
	延べ入院患者数	36,448人	35,705人	38,393人	2,688人	令和5年度に新たに入院した患者数
	50歳代以下	5.1%	9.9%	10.7%	0.8%	
	60歳代	6.3%	6.5%	9.1%	2.6%	
	70歳代	28.5%	22.1%	19.2%	△2.9%	
	80歳代	39.5%	41.1%	41.3%	0.2%	
	90歳代以上	20.6%	20.3%	19.7%	△0.6%	
	新入院患者数	1,036人	1,030人	1,162人	132人	令和5年度に新たに入院した患者数
	一般	817人	832人	913人	81人	
	回復期リハ	132人	117人	140人	23人	
		療養	87人	81人	109人	28人
平均在院日数	34.8日	34.8日	33.2日	△1.6日	延べ入院患者数÷{(新入院患者数+退院患者数)÷2}	
一般	15.9日	15.2日	14.4日	△0.8日		
回復期リハ	64.8日	67.3日	72.8日	5.5日		
療養	99.7日	104.4日	80.3日	△24.1日		
台東区民の占める割合	86.1%	89.2%	86.3%	△2.9%		
回復期リハ病棟の在宅復帰率	91.5%	96.2%	89.4%	△6.8%	1年間分	
外来	延べ患者数	64,095人	64,231人	64,435人	204人	延べ患者数÷外来診療日数
	1日平均患者数	218.8人	219.2人	219.9人	0.7人	
	初診患者数	8,832人	9,632人	10,065人	433人	初診料を算定した患者数
	新患率	13.8%	15.0%	15.6%	0.6%	初診患者数÷延べ患者数×100
	台東区民の占める割合	88.9%	88.4%	87.8%	△0.6%	
	初期救急患者数	851人	1,210人	876人	△334人	R5年度 発熱外来受診者 3,446人
	救急車受入数	319人	293人	363人	70人	
	来院患者数	532人	917人	513人	△404人	

【老健千束】

区分		R3年度	R4年度	R5年度	前年度比	備考	
体制	職員数	87.0人	85.9人	87.5人	1.6人	○年度末を基準とする ○全て常勤換算人数	
	医師	1.5人	1.5人	1.5人	0.0人		
	介護・看護職員	73.5人	73.6人	74.0人	0.4人		
	リハビリ職員	12.0人	10.8人	12.0人	1.2人		
入所	入所利用率	83.0%	87.9%	90.4%	2.5%	延べ入所者数÷延べベッド数×100	
	1日あたり短期入所者数	3.6人	5.4人	4.1人	△1.3人	延べ短期入所者数÷365日(閏年は366日)	
	延べ入所者数	45,428人	48,151人	49,645人	1,494人	延べ入所者数は長期入所と短期入所(ショートステイ)の合算	
	60歳代以下	3.5%	5.2%	5.5%	0.3%		
	70歳代	15.1%	12.4%	8.0%	△4.4%		
	80歳代	40.7%	43.5%	39.9%	△3.6%		
		90歳代以上	40.7%	39.0%	46.6%	7.6%	
	平均在所日数	218.3日	245.5日	226.2日	△19.3日	入所延べ日数÷{(新規入所者数+退所者数)÷2} ※1年間分	
	回転率	13.9%	12.4%	13.5%	1.1%	月間平均暦日数÷平均在所日数×100	
	台東区民の占める割合	99.9%	99.9%	99.9%	0%		
在宅復帰率	26.5%	19.3%	46.7%	27.4%	退所先が自宅やグループホーム等の割合		
通所	1日あたりの利用者数	23.4人	25.9人	30.8人	4.9人	延べ利用者数÷通所営業日数	
	台東区民の占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	0%		

【連携等】

区分		R3年度	R4年度	R5年度	前年度比	備考	
地域連携相談室	職員数	10.0人	10.0人	10.0人	0.0人	全て常勤換算人数	
	社会福祉士	3.0人	3.0人	3.0人	0.0人		
	支援相談員	3.0人	3.0人	3.0人	0.0人		
	介護支援専門員	3.0人	3.0人	3.0人	0.0人		
	事務員	1.0人	1.0人	1.0人	0.0人		
	相談件数	2,200件	2,319件	2,359件	40件	主たる内容により区分	
	入院(一般)	817件	832件	913件	81件		
	入院(回復期リハ)	430件	458件	460件	2件		
	入院(療養)	235件	214件	209件	△5件		
	入所	595件	657件	601件	△56件		
通所	123件	158件	176件	18件			
紹介	入院患者	467人	464人	497人	33人	○検査依頼を除く、医師の紹介状(診療情報提供書)を持参した患者数	
	一般	251人	268人	256人	△12人		
	回復期リハ	130人	117人	140人	23人		
	療養	86人	79人	101人	22人		
	診療所からの紹介(再掲)	93人	91人	107人	16人	○紹介率=(紹介状持参患者数+救急患者数)÷初診料算定患者数 (1,301+363)/10,529=15.8%	
	外来患者	787人	794人	804人	10人		
	病院から	314人	320人	304人	△16人		
診療所から	441人	426人	422人	△4人			
施設から	32人	48人	78人	30人			
逆紹介	入院患者	405人	412人	453人	41人	○診療情報提供料を算定した患者数(返送患者を含む) ○逆紹介率=診療情報提供料算定患者数÷初診料算定患者数 2,282 / 10,529 = 21.7%	
	一般	205人	210人	238人	28人		
	回復期リハ	144人	133人	150人	17人		
	療養	56人	69人	65人	△4人		
	診療所への逆紹介(再掲)	170人	153人	175人	22人		
	外来患者	1,472人	1,505人	1,454人	△51人		
	病院へ	999人	1,051人	1,046人	△5人		
診療所へ	381人	364人	340人	△24人			
施設へ	25人	12人	16人	4人			
宛名なし等	67人	78人	52人	△26人			
返送	入院患者	93人	69人	74人	5人	診療情報提供書を持参した患者のうち、入院後、紹介元医療機関等に返送(診療情報提供料を算定)した患者数	
	一般	49人	37人	37人	0人		
	回復期リハ	29人	22人	27人	5人		
	療養	15人	10人	10人	0人		
診療所への返送(再掲)	50人	42人	47人	5人			
入退院患者・入退所者の経路	新入院患者	自宅から	49.5%	45.8%	47.9%	2.1%	新入院患者の総数は、令和3年度1,036人、令和4年度1,030人、令和5年度1,162人
	診療所からの紹介	9.0%	8.8%	9.2%	0.4%		
	他病院からの紹介	32.5%	30.4%	27.9%	△2.5%		
	福祉施設等から	4.8%	7.5%	8.1%	0.6%		
	老健千束から	4.2%	7.5%	6.9%	△0.6%		
	退院患者	自宅へ	43.8%	41.3%	38.0%	△3.3%	退院患者の総数は、令和3年度1,056人、令和4年度1,022人、令和5年度1,146人
	診療所への逆紹介	16.1%	15.0%	15.2%	0.2%		
	他病院への転院	8.4%	9.7%	8.6%	△1.1%		
	他病院の外来への紹介	5.1%	4.4%	4.2%	△0.2%		
	福祉施設等へ	8.6%	11.2%	11.5%	0.3%		
	老健千束へ	6.5%	8.8%	9.5%	0.7%		
	看取り	11.5%	9.6%	12.9%	3.3%		
	新入所者	自宅から	23.3%	26.1%	22.4%	△3.7%	新入所者の総数は、令和3年度180人、令和4年度207人、令和5年度223人
	福祉施設等から	2.2%	1.4%	1.8%	0.4%		
台東病院から	37.8%	43.5%	48.9%	5.4%			
他の病院から	36.7%	29.0%	26.9%	△2.1%			
退所者	自宅へ	13.4%	11.9%	18.6%	6.7%	退所者の総数は、令和3年度157人、令和4年度210人、令和5年度226人	
福祉施設等へ	35.0%	31.9%	33.2%	1.3%			
台東病院へ	28.0%	36.7%	35.4%	△1.3%			
他の病院へ	2.6%	4.3%	2.6%	△1.7%			
看取り	21.0%	15.2%	10.2%	△5.0%			
緊急一時病床利用者数	99人	113人	139人	26人	うち在宅療養患者の受入は53人		
退院前カンファレンス件数	124件	110件	97件	△13件	多職種による検討会の実施件数		
訪問リハビリテーション延べ利用者数	3,148件	2,980件	2,210件	△770件	平成23年2月より実施		

②経営分析

区分		R3年度	R4年度	R5年度	前年度比	備考	
台東病院	経常収支比率	106.8%	111.2%	100.2%	△11.0%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	0.9%	0.8%	0.8%	0.0%	指定管理料÷総費用×100	
	医業収益に対する職員給与費比率	65.6%	69.6%	65.2%	△4.4%	職員給与費÷医業収益×100	
	医業収益に対する委託費比率	9.5%	9.0%	8.4%	△0.6%	委託費÷医業収益×100	
	医業収益に対する材料費比率	13.9%	15.1%	17.1%	2.0%	材料費÷医業収益×100	
	病床利用率	83.2%	81.5%	87.4%	5.9%	入院延べ患者数÷延べ病床数×100	
	1日外来患者数	218.8人	219.2人	219.9人	0.7人	延べ患者数÷外来診療日数	
	入院患者1人1日あたり診療収入	36,138円	37,934円	36,895円	△1,039円	入院収益÷入院延べ患者数	
	外来患者1人1日あたり診療収入	8,196円	8,566円	8,360円	△206円	外来収益÷外来延べ患者数	
	医師1人1日あたり診療収入	258,110円	318,871円	315,507円	△3,364円	(入院収益+外来収益)÷年延べ医師数(看護・介護職員数)	
	看護・介護職員1人1日あたり診療収入	52,778円	53,430円	55,960円	2,530円		
	CT	稼働率	47.2%	51.6%	62.1%	10.5%	稼働率=検査件数÷(1日あたり検査可能件数(20件)×外来診療日数)×100
		検査件数	2,768件	3,025件	3,637件	612件	
		うち検査依頼受付件数	367件	333件	302件	△31件	
MRI	稼働率	62.1%	62.9%	67.7%	4.8%	稼働率=検査件数÷(1日あたり検査可能件数(12件)×外来診療日数)×100	
	検査件数	2,182件	2,211件	2,381件	170件		
	うち検査依頼受付件数	459件	447件	503件	56件		
老健千束	事業収支比率	88.0%	88.2%	97.2%	9.0%	総収益÷総費用×100	
	総費用に対する指定管理料比率	0%	0%	0%	0%	指定管理料÷総費用×100	
	事業収益に対する職員給与費比率	76.0%	71.3%	67.9%	△3.4%	職員給与費÷事業収益×100	
	事業収益に対する委託費比率	13.3%	12.0%	12.0%	0.0%	委託費÷事業収益×100	
	入所利用率	83.0%	87.9%	90.4%	2.5%	入所延べ患者数÷延べベッド数×100	
	1日通所利用者数	23.4人	25.9人	30.8人	4.9人	延べ利用者数÷通所運営日数	
	入所者1人1日あたり事業収益	15,161円	17,050円	15,696円	△1,354円	入所収益÷入所延べ患者数	
	通所者1人1日あたり事業収益	13,038円	12,432円	12,019円	△413円	通所収益÷通所延べ患者数	

③計画性・改善状況等

区分		R3年度	R4年度	R5年度	前年度比	備考
講演会		5件	6件	13件	7件	喫煙防止教室
その他区民向けイベント		0件	7件	7件	0件	病院祭・認知症カフェ(7件)
投書件数		10件	11件	37件	26件	
	謝意	6件	4件	20件	16件	
	助言	2件	3件	5件	2件	
	苦情	2件	4件	12件	8件	

主な意見と対応

- 【謝意】 ○ ・看護師の笑顔と励まし、献身的な看護に感動した。
 ・両親とも台東病院に通院しているが、通院の際は名前でも読んでもらい、尊厳を大事にしてもらった。
 ・患者を自身の家族のようにしておられる看護師長の下、その考えがフロア全体に行き届いており素晴らしい病院だと感じた。
- 【助言】 ○ ・靴べらを置いてもらいたい。⇒設置済み
 ・対応クレジットカード会社に、JCBカードも追加してもらいたい。⇒導入済み
- 【苦情】 ○ ・採尿トイレが汚い。⇒検査室と共有し、見回り回数を増やした。
 ・総合診療科の医師の話し方、態度が酷かった。淡々と話し、ふてくされる態度、患者に不安をあたえるような発言があった。⇒医局内で周知、共有し、指導を行った。

④その他

居宅介護支援事業所千束(自主事業)

介護支援専門員は継続的に1名体制で運営している。介護給付管理件数は30.5件/月で推移した。(前年度32.8件/月)
 本年度は従前通り病院併施設のメリットを生かしつつ外来等で介護サービスに繋がっていない高齢者への介護保険サービス導入の為に地域包括ケアセンター等と積極的な連携を実践した。又、他事業所にて対応が難しい医療行為のある在宅患者や処遇困難事例のケース対応も継続的に担っていく。

4 評価

【評価の段階】

A	目的・要求等を十分に満たしている状態
B	目的・要求等を概ね満たしている状態
C	目的・要求等に対し補う必要がある状態

(1)役割・機能の評価

①台東病院が主に高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能しているか	
【参考指標】患者実績(P8)など	
事業者 評価 A	根拠 病院全体の病床利用率は前年比5.9ポイント増加の87.4%、回復期病棟は病床利用率8.6ポイント増加の91.8%。療養病棟は病床利用率5.3ポイント増加の91.1%と高稼働で推移することができた。又、昨年同様に訪問診療医からの依頼により、在宅療養患者を夜間休日含め延べ59人、近隣特養からは延べ85人の緊急受入を行い、昨年同様引き続き、特養に対する嘱託医派遣を実施している。
協議会 評価 A	根拠 主に回復期、慢性期の患者の入院を対象とした回復期病棟及び療養病棟の病床利用率が改善し、高い病床利用率を維持することができている。さらに、在宅療養患者の入院受入や区内特養入所者の緊急受入を積極的に行っているほか、区内の特養に対する嘱託医の派遣も引き続き実施している。以上のことから、高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。
②台東病院・老人保健施設千束が在宅復帰・在宅療養を支援する施設として機能しているか	
【参考指標】入所者実績、リハビリテーション実績(P8)など	
事業者 評価 A	根拠 台東病院の新規入院件数は前年比延べ132人増加の1,162人で内自宅からの新入院患者は前年比延べ85人増加の557人で推移し、緊急一時病床利用者数も前年比延べ26人増加の139人(内在宅療養患者は53人)の入院患者受入を行った。 退院前カンファレンスに関しては、地域関連多職種の協力により97件開催し、回復期病棟における在宅復帰率も89.4%と高水準で維持する事ができた。 老健千束においても、在宅復帰率が46.7%と昨年比大幅に増加している。しかし、新型コロナウイルス感染症5類移行後も引き続き感染対策を徹底していたものの、散発的にクラスターが発生したため、ベッドの回転率等が減少し「在宅強化型」の施設基準を取得できない期間があった。一方で、地域からの要望に応じて、緊急ショートステイサービスをフロア調整等の工夫により受入を停止することなく実施し、延べ32人の緊急ショートステイの受入を行った。
協議会 評価 A	根拠 回復期病棟の在宅復帰率は昨年度よりも低下しているものの、89.4%と高い水準を維持しており、急性期後の患者に適切なリハビリを行い在宅復帰に向けた十分な対応していると評価できる。また、在宅復帰に向け、退院前・退所前のカンファレンスを着実に行ったことなどにより、老健千束の在宅復帰率が46.7%と前年度から大幅に上昇している。以上のことから、在宅復帰・在宅療養を支援する施設として機能していると評価できる。
③医療機関等との連携は適切に行われているか	
【参考指標】医療連携の実績(P9)など	
事業者 評価 A	根拠 医師会、台東区健康課、台東病院間で令和4年1月からモデル事業からスタートした「台東病院在宅療養患者登録制度」は、令和5年3月末時点では登録医療機関6施設、登録患者数は9名であったが、令和6年3月末迄に登録医療機関は1施設増の7施設に拡大し、登録患者数は25名、入院患者数は延べ6名となり、事業の継続及び医師会との協議も継続している。 また、永寿総合病院脳神経内科と連携し、城東脳卒中連絡協議会の開催や区内病院連絡会議、区内看護部長会議等、多方面で多角的に医療機関との積極的な連携業務を継続して実施している。
協議会 評価 A	根拠 「台東病院在宅療養患者登録制度」は、登録医療機関数、登録患者数が徐々に増加しており、着実にすそ野を広げている。同制度により在宅療養患者の入院受入を行うことは、訪問診療を行う地域の医療機関を支える取り組みとして、評価できる。また、永寿総合病院脳神経内科と連携し、城東脳卒中連絡協議会の開催や区内病院連絡会議、区内看護部長会議等、多方面で多角的に医療機関との積極的な連携業務も継続しており、医療機関等との連携は適切に行われていると評価できる。

【備考】

病院では、平成31年3月に日本医療機能評価機構の病院機能評価(一般病院1)の更新審査を受審し、令和元年5月2日に認定を取得した。老健では、令和3年2月に第三者評価を受審している。病院機能評価は、令和6年5月1日で認定期間が満了となる。今後の受審については検討中であり、当面は、地域医療振興協会協会本部の内部監査や会計監査法人の監査を受けることにより業務の質を高めていく。

(2)効率性・経済性の評価

①台東病院・老人保健施設千束の施設・機器等を効率的に活用しているか

【参考指標】経営分析結果(高額医療機器の稼働率)(P10)など

<p>事業者 評価 A</p>	<p>根拠</p>	<p>台東病院においては発熱外来、小児を含めた新型コロナワクチン接種及び施設入所前PCR事業、新型コロナ後遺症相談窓口を継続的に実施し、施設全体で区民に向けた新型コロナ対応に取り組んだ。CT、MRI等の高額医療機器の稼働状況に関しては、CT検査は対前年比612件増加の3,637件、MRI検査は対前年比170件増加の2,381件で推移し、他医療機関からの検査依頼に関しては、可能な限り即日検査、即日結果レポート報告の体制を維持し、近隣医療機関の利便性の向上に努めた。CT検査は対前年比31件減少の302件と微減となったが、MRI検査は対前年比56件増加の503件の依頼を受けるに至った。 また、老健千束に関しては従前通り、一般の療養棟と認知症専門療養棟を適切に活用できるように多職種にて利用検討会議(入所前カンファレンス)を開催し、適切なフロア利用を行うとともに、緊急ショートステイ利用者等に関して心身状況や家屋事情を勘案して期間延長や入所への切り替えを行い、利用者負担に繋がらない柔軟な施設運営を実践している。</p>
<p>協議会 評価 A</p>	<p>根拠</p>	<p>病院では、新型コロナワクチン接種や発熱外来、新型コロナ後遺症相談窓口を継続するなど、引き続き新型コロナウイルス対応に取り組んでいる。また、CT・MRIについては、検査依頼に対し、可能な限り即日対応し、近隣医療機関の利便性の向上に努めている。 老健千束では、入所前カンファレンスにおいて、多職種で支援方針を検討し、一般療養棟と認知症専門療養棟への適切な入所調整を行うとともに、緊急ショートステイ利用者等に関して、心身状況や家屋事情を考慮して、利用者の負担にならない柔軟な施設運営を実施している。以上のことから、施設・機器等を効率的に活用していると評価できる。</p>

②台東病院・老人保健施設千束の一体的な事業運営の効率性は発揮されているか

※医業外及び事業外収支は評価対象外

【参考指標】経営分析結果(P10)など

<p>事業者 評価 B</p>	<p>根拠</p>	<p>病院の医業収益は、前年度比43,015千円増、医業費用は、59,233千円減となり、約1億円の収益改善であったが、医業損益は95,415千円の赤字となった。老健千束の事業収益の前年度比は14,564千円増、事業費用は、49,489千円減となり、約6千万円の収益改善であったが、事業損益は30,006千円の赤字となった。 医業・事業収益ともに改善をしたが、全体の損益が赤字となった理由は、新型コロナ関連の補助金が無くなったことにより、医業・事業外収益が大幅に減少したためである。 一体的な事業運営を目指し、職員採用や各種委員会、研修会の一元的な管理を継続すると共に、新型コロナの感染対策においても病院、老健合同による臨時感染対策会議の開催による対応の徹底と情報共有を行った。 また、複合施設の利点を活かし、台東病院から老健千束への入所者数は延べ109人、老健千束から台東病院への入院患者数は延べ80人(内、新型コロナ患者は39人)と相互で一体的な事業運営を継続実施している。</p>
<p>協議会 評価 B</p>	<p>根拠</p>	<p>本業の業績を示す医業及び事業損益は、新型コロナ流行の影響から回復し、大幅な改善が見られた。しかし、新型コロナ関連の補助金が無くなった影響で施設全体の収支は、赤字となっている。補助金の有無が収支に大きく影響を与えているが、散発的に発生したクラスターによる影響も少なくないため、感染対策をより徹底した施設運営が引き続き求められる。 一方で職員採用や各種委員会、研修会の一元的な管理を継続すると共に、複合施設の利点を活かし、台東病院・老健千束、相互に連携しての入退院・入退所調整や、合同での感染症対策会議、陽性者の病院急性期病棟での受入れ等を実施していることから、一体的な事業運営の効率性は発揮されていると評価できる。</p>

(3)計画性・改善状況等の評価

①前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか	
事業者評価 A	根拠 前年度意見 ○満足度調査(入院、入所者)への調査再開 →令和4年度に外来を再開し、令和5年度において入院、入所、外来とも再開している。期間は10月2日～10月7日に実施した。医師、職員の説明や対応、診療に関しては満足度が75%を超えているが、待ち時間に関しては満足度が40%台前半であったため、デジタルサイネージで感染対策、健康推進、フレイル予防動画、消防署からの防火、救急のお知らせを流すなどの待ち時間対策に加え、検査室の早番体制を整え、診察前に検体採取を行うなどの対策を行った。今後も継続課題として努力していく。 ○職員が生き生きと働くことができ、能力を發揮できるよう、組織としてサポートして欲しい。 →患者満足度調査と合わせて、まずは職員やりがい度調査を実施し、組織として不足しているもの、サポートが必要なものを洗い出し、やる気を引き出せるような業務推進を考えていきたい。 ○CT、MRIの検査依頼の継続要望 ⇒効率性、経済性にて記載済。
協議会評価 A	根拠 新型コロナの影響で中止をしていた患者満足度調査については、令和4年度は外来、令和5年度は入院、入所、外来共に再開をしている。待ち時間に関しては、課題があることが満足度調査の結果で示されたことから、デジタルサイネージで感染対策、健康推進、フレイル予防動画、消防署からの防火、救急のお知らせを流すなどの待ち時間対策に加え、検査室の早番体制を整え、診察前に検体採取を行うなどの対策を行っている。また、職員が生き生きと働き、能力を發揮できる環境を整えられるよう、職員やりがい度調査の実施に向け準備をしている。以上のことから、前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしていると評価できる。
②利用者や区民の意見を取り入れ、台東病院・老人保健施設千束の運営や、利用者の満足度向上に活かしているか	
【参考指標】利用者からの主な意見と対応(P10)など	
事業者評価 A	根拠 患者からの投書は、新型コロナの5類化が影響したためか、前年度よりも増加し、従来と同じ程度の投書件数となっている。投書の内容については、委員会での検討を経て幹部会議で報告し、回答を掲示すべきものについては、掲示し、個別に回答が必要な場合は、個別の対応をしている。患者満足度調査については、外来、入院、入所とも令和5年度から書面で再開した。選択回答、自由記載欄の中で多いものから取り上げ、院内で検討し改善につなげている。
協議会評価 A	根拠 新型コロナの影響が減少したことから、従来と同程度の投書件数があった。投書の内容について、院内で共有し、対応などを協議し、状況に応じた対応をしている。また、患者満足度調査の結果について、特に意見が多いものから順に取り上げ、病院運営の改善に繋げている点が評価できる。
③区立の病院・老人保健施設として、他機関では対応が困難なケースの受入れや区民向けに特化した事業等、採算性にとらわれず事業を実施しているか	
事業者評価 A	根拠 台東区高齢福祉課から依頼を受け虐待ケース等や身寄りがない高齢者の区長申立による成年後見人の選任協力等、病院・老健千束にて協働し横断的な支援を継続的に行っている。 また、病院・老健千束ともに本来の機能を最大限に發揮するにとどまらず、地域包括ケアシステムにおける慢性期医療を担う当施設の役割を認識し、看取りに向けたACP(アドバンス・ケア・プランニング)について積極的に取り組み、本人や家族等に意向に沿った穏やかな看取りの対応を実践している。その結果、療養病棟における死亡退院割合は51.1%と昨年度の44.7%よりも増加している。 さらに、老健千束においては、都立病院感染症科と連携し、HIV患者や感染症のある要介護者を長期入所の対応が出来るよう受入体制を整えている。当施設の運営理念である「ずっとこのまちで暮らし続けたいを応援します」を職員一丸で考え実行している。
協議会評価 A	根拠 虐待案件や身寄りがない高齢者の区長申立による成年後見人の選任協力等、病院・老健千束にて共同し横断的な支援を継続的に行っている。 また、看取りに向けたACPについて積極的に取り組み、本人や家族等の意向に沿った穏やかな看取りの対応を実践している。 老健千束においては、都立病院感染症科と連携し、HIV患者や感染症のある要介護者を長期入所の対応が出来るよう受入体制を整え、他機関では対応が困難なケースの対応をするなど、採算性にとらわれず事業を実施していると評価できる。

④医療従事者の安定的な確保、職員の能力開発や職場の人材育成、組織の持続的成長や環境の変化への適応など、理念を実現する取り組みを推進しているか

<p>事業者 評価 A</p>	<p>根拠</p>	<p>例年と同様に、看護師や介護士確保のため、学校訪問の実施や就職セミナーに参加する等、新卒採用を含め人材確保の取り組みを継続的に行っている。 また、看護、介護職だけではなく理学療法士、作業療法士も確保に向け学校訪問をしている。人材育成等については、新規採用時から複数年の研修計画を部門毎に作成することとし、多職種で連携した教育に取り組んでいる。事務職に関しても、新卒採用、本部からの研修生も含め育成プログラムを確立させ、将来を担える職員育成に取り組んでいる。 第2水曜日に開催する事業推進会議では、役職者だけでなく、一般職員もハイブリッド形式で参加が可能であり、経営状況、運営状況に関して関心を持ってもらうことで、当施設の現在地を知るような機会となっている。 健康推進委員会では、食に関すること、近隣美化に関することを取り上げ、参加することで人間育成に役立てるようにしている。 さらに、地域で行われているお祭りやイベント、自主開催する病院祭などでは、地域との関りを大切にすることで台東区の文化を学ぶ機会を作っている。</p>
<p>協議会 評価 A</p>	<p>根拠</p>	<p>看護師や介護士確保に加え、理学療法士、作業療法士を確保するために、学校訪問の実施や技能実習生の受入れ等、新卒採用を含めた多様な取り組みを継続的に行っている。また、人材育成等のために、専門職については、新規採用時から複数年の研修計画を部門毎に作成し、多職種で連携した教育に取り組んでいる。事務職に関しても、新卒採用、本部からの研修生も含め育成プログラムを確立させ、将来を担える職員育成に取り組んでいる。 さらに、地域のイベントへの参加、病院祭の開催など、地域との関りを大切にし、職員が台東区の文化に触れる機会を創出するなど、多様な人材育成に繋げている点が評価できる。</p>

5 総合評価等

【総合評価】

台東病院については、主に回復期、慢性期の患者の入院を対象とした回復期病棟及び療養病棟の病床利用率が改善し、高い病床利用率を維持することができている。さらに、訪問診療を行う地域の医療機関を支える取り組みとして、「台東病院在宅療養患者登録制度」により、在宅療養患者の入院受入を行っているほか、区内特養入所者の緊急受入を積極的に行っていることに加え、区内の特養に対する嘱託医の派遣も引き続き実施していることから、高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。また、回復期病棟の在宅復帰率は昨年度よりも低下しているものの、89.4%と高い水準を維持しており、急性期後の患者に適切なりハビリを行い在宅復帰に向けた十分な対応をしている点も在宅復帰・在宅療養を支援する施設として機能していると評価できる。

老人保健施設千束については、入所前カンファレンスにおいて、多職種で支援方針を検討し、一般療養棟と認知症専門療養棟への適切な入所調整を行うとともに、在宅復帰に向けた退所前カンファレンスを着実に行ったことにより、在宅復帰率が46.7%と前年度から大幅に上昇している。また、都立病院感染症科と連携し、HIV患者や感染症のある要介護者を長期入所の対応が出来るよう受入体制を整え、他機関では対応が困難なケースの対応をするなど、採算性にとらわれず事業を実施していると評価できる。

収支については、本業の業績を示す医業及び事業損益は、新型コロナ流行の影響から回復し、大幅な改善が見られたが、散発的に発生したクラスターの影響や新型コロナ関連の補助金が無くなった影響などにより、施設全体の収支は、赤字となっている。

人材育成については、計画的に研修を行うだけでなく、地域のイベントに参加するなど、地域との関りを大切にし、職員が台東区の文化に触れる機会を創出するなど、多様な人材育成に繋げている点が評価できる。

今後とも、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、利用者や運営協議会等の意見を踏まえ、区や地域の医療機関等と連携して、質の高いサービスの提供を図ることが求められる。

【その他意見】

○補助金の有無が収支に大きく影響を与えているが、散発的に発生したクラスターによる影響も少なくないため、感染対策をより徹底した施設運営に努めてもらいたい。

○診療の待ち時間は、以前よりスムーズになってきているが、引き続き、様々な対策の実施に努めてもらいたい。

○在宅療養患者の登録制度を整備し、拡充していく取り組みは、訪問診療専門の医療機関が増えている中、1人の医師が診療を行っているような地域の診療所が訪問診療を行う上で非常に助かっている。